

2023 年度 政策研究大学院大学
公共工事入札監視委員会議事概要

開催日及び場所	2023 年 12 月 11 日（月） 14：30～16：00 政策研究大学院大学 3 B 会議室	
委 員	委員長 青山 伸一（公認会計士） 委 員 川瀬 貴晴（名誉教授） 委 員 松原 健一（弁護士） ※五十音順	
審議対象期間	2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日	
抽 出 案 件（合計）	2 件	（備考） ・入札監視委員会設置要項に基づき、互選により青山委員を委員長に選出した。 ・事務局より、契約事務取扱規程の説明を行った。 ・個別審議案件について事務局から説明を行い、質問等への回答を行った。 ・審議対象期間においては、再苦情の申立て及び同審議依頼はなかった。
工 事（小計）	2 件	
一般競争入札 <small>（政府調達に関する協定対象工事）</small>	0 件	
一般競争入札 <small>（上記工事を除く）</small>	2 件	
工事希望型競争入札	0 件	
通常指名競争入札	0 件	
随意契約	0 件	
設計・コンサルティング業務 <small>（小計）</small>	0 件	
簡易公募型 プロポーザル（拡大）	0 件	
随意契約	0 件	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	なし	

質 問	回 答
<p>1. 昨年度講評を踏まえての対応状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 入札工事案件については設計事務所に協力を仰ぐこととしているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 本学契約事務取扱規程に定める金額を超える入札工事案件については設計事務所を活用しながら、適切な調達となるよう努めている。
<p>2. 個別審議について</p> <p>(1) 中央監視設備更新工事Ⅲ期（一般競争入札）</p> <ul style="list-style-type: none"> 入札説明書を取りに来たが入札参加しない業者がいたのはなぜか。 最終期工事のため1社応札となった原因は理解できるが、他社が参加しなかった理由も明確にしておく必要があるのではないか。 最低基準価格を下回ったが、工事実施は問題ないと判断した理由はなにか。 低入札価格となっているが予定価格設定に問題はなかったのか。 予定価格作成はどのような方法としているか。また、設計事務所の関わりはどのようなものか。 	<ul style="list-style-type: none"> 入札参加しなかった業者に聞き取りを実施したところ、仕様書に本工事が最終期であることと、配置人材確保が不可能となったことから参加しないとの説明があった。 1社応札となった原因は工事最終期であるとともに、他の業者にも参考見積書提出を求めたが、見積辞退となった。今後入札を辞退した業者には辞退理由を確実に徴取していきたい。 入札後直ちに入札見積り内容を精査・確認し、工事実施可能と判断した。 コロナ後、社会全体で公共工事が活発化していることもあって、工事期間を十分に設定する要素も加味した予定価格設定をおこなった。低入札価格となった要因も自社製品使用の自助努力が作用しており、適正な工事実施は可能と判断した。 設計事務所と同時にメーカーからも参考見積を徴取し、それらを参考にしながら作成した。また、設計事務所は設計や積算の協力と工事監理をいただき、予定価格作成では応札業者以外の参考見積徴取も試みたが、見積書提出の辞退があった。予定価格作成に至る資料については、委員会資料として添付が十分ではなかった点については次回から改めていきたい。

質 問	回 答
<p><u>(2) 入退室管理設備更新工事（一般競争入札）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入札公告周知はどのようにしたか。 ・入札参加辞退となった理由はなにか。 ・競争参加資格申請を行った2社は、過去も含め取引はあるのか。 ・予定価格作成のプロセスはどのようになっているか。 ・落札業者も参考見積提出があったが、入札金額との乖離はあったのか。 ・1社応札であったが、競争性が働く要素が少なかったのか。 ・更新工事によって性能や機能はどのように変わったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学内掲示板への掲示のほか、文部科学省契約情報 Web サイトへの掲載を行った。 ・入札を辞退した業者にヒアリングを実施した結果、他の工事との調整がつかず工事管理者の手配ができないとの回答があった。 ・2社ともに取引実績がある。 ・メーカー見積りは3社より徴取し、これらを参考に予定価格を作成した。 ・結果として1社応札となったものの、落札業者が他の応札業者をけん制し、安価な入札を実施したため乖離した。 ・本設備はIDカードとの連動があり他のシステムとの連動性や費用を勘案する必要あり、競争性の拡大も含め仕様書においてメーカーリストに3社記載し、メーカー選択を可能とした。また、入札参加者数を勘案し電気工事として扱ったが、結果として入札参加業者は1社のみとなった。 ・更新工事によって機材が新しくなるとともに、入退室管理が必要な個所への増設設置が対応可能となった。

委員講評

<p>1. 全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入札プロセスの中で業者がどの時点で参加辞退としてきたのか、次回資料から検討願いたい。
--